



01. 蒲郡市を包み込む大地形のように

蒲郡市内は、穏やかな海に面する海岸線、周囲を包み込む山々、青い空の調和により、市街地が一体感を持って構成されている。大地形に包み込まれたような「蒲郡市らしい景観」は、市民にとって居心地のいい「原風景」となっている。これらは、「残していきたいがまごりの景観」として、市民に愛着がある大切な景観である。



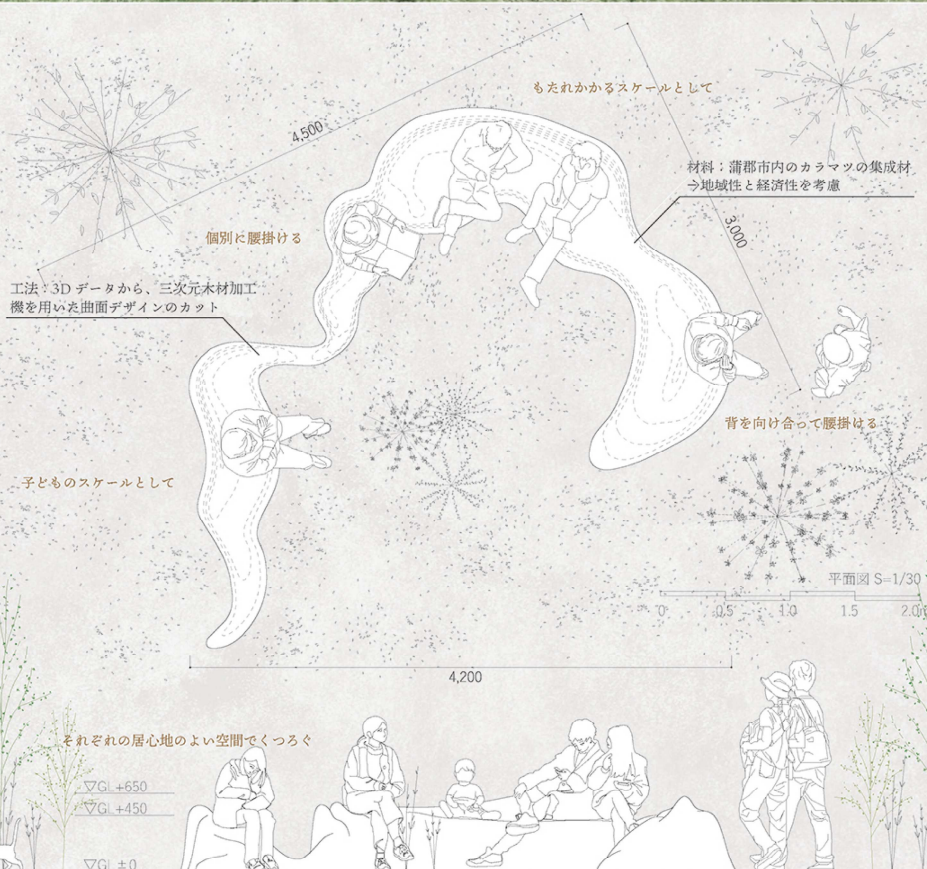
02. 身体性で体感する暮らしの豊かさ

蒲郡市特有の山と海に包まれた自然的な大地形を、ベンチという身体性に落とし込む。変化に富んだ景勝をもつ景観特性を身体スケールで捉えなおし、色んな過ごし方ができるように、有機的で多様な断面パターンを組み込んだ。市民のみんなの「暮らしの一部」となり、長く愛され続ける居場所となることを期待する。



03. 包み込まれる「みんなの居場所」

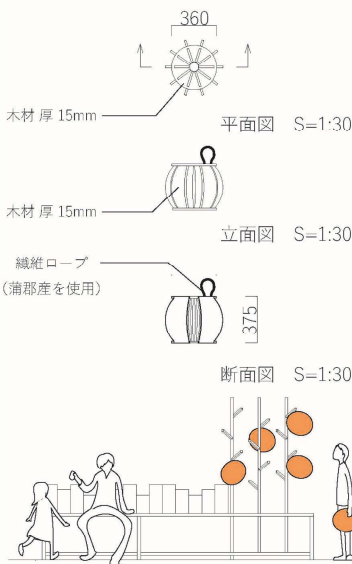
蒲郡市を象徴するように、座った人たちは緩やかに向き合ったり、心までもが包み込まれる。竹島を望むベンチは、市民にも観光客にも豊かな居場所となり、ここに集まってつくりたいと、そこには優しい「コミュニティの輪」が自然と生まれてくるだろう。



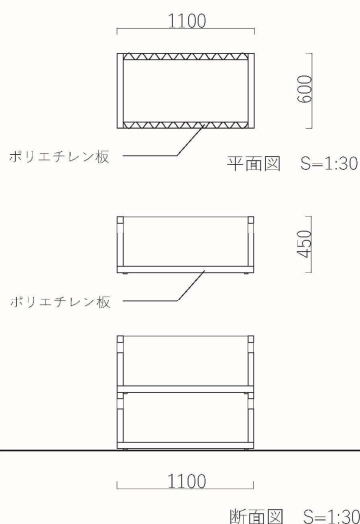
みかん農家になって
みかんを運ぼう！

▶みがんの木ベンチ

街で見つけたみかんベンチを
最後に木のベンチに戻してアートベンチ完成させる。

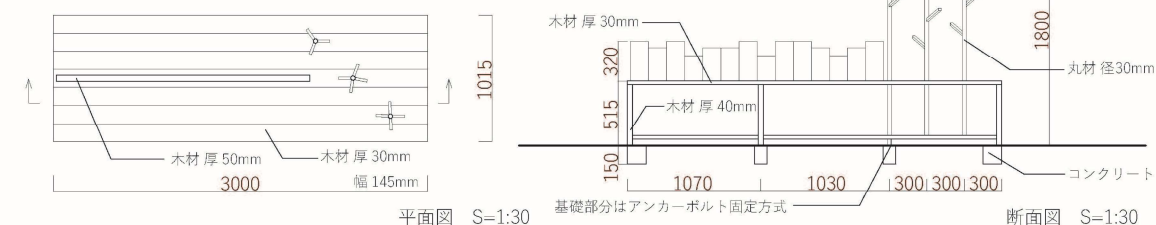


みかん収穫後に入れるコンテナ。
コンテナにみかんベンチを収納できる。
2段、3段に重ねて使うことも可能。



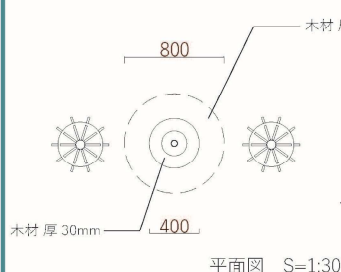
An illustration showing two children and a box. On the left, a child stands next to a large, open cardboard box, holding an orange ball. On the right, another child sits on a large orange ball. The box contains one orange ball.

みかんを摘み取ろう ▶みかんの木ベンチ

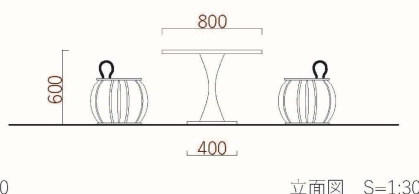


蒲郡市の特産品であるみかん。
このみかんが並ぶオレンジロードの
終点にあたる場所を拠点とし、
地域各地にみかんを模したベンチを設置する。
これにより、観光客には街歩きを促し、
蒲郡の「日常」を体験してもらうことができる。
一方で、地域住民にとっては、
見慣れた風景の中に突然みかんが現れることで、
アートとしての「非日常」を提供する。

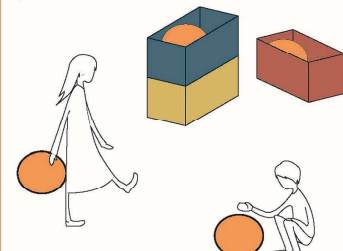
お茶の間にみかんを食べるように、
机を囲んでみかんベンチに座り、交流する



▶お茶の間ベンチ

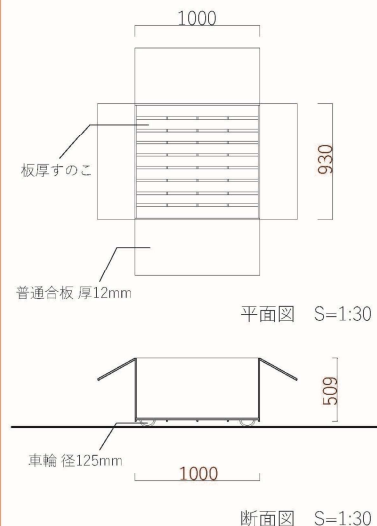


▶ コンテナベンチ

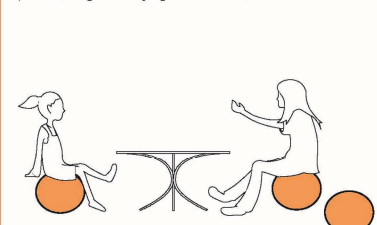


▶ダンボールベンチ

みかん出荷する際に入れるダンボール。
ダンボールにみかんベンチを収納して
キャストで移動もできる。



▶お茶の間ベンチ



住民の方は
ここから
◀ START

街中にあふれたした
みかんを見つけ出そう！

お貝銭箱

shell box

HZ00008802

竹島から持ち帰る貝殻には価値がある。

なぜなら橋を徒歩で渡るため、貝殻を選んで持ち帰るから。

厳選して竹島から持ち帰った価値ある貝殻を

完成という一つの目標の為に入れれるかを問う**使用者参加型のベンチ。**

竹島に渡る人は、旅行者が多い。

なので、記念として貝殻を持ち帰ることがある。

竹島の西側には、貝殻が無数に流れ着いている。

その中で持ち帰る為に厳選したものは価値があるものだ。

また昔は、綺麗な貝殻がお金として価値があった。

これらの行動や環境、歴史に着目し

貝殻 × 賽銭箱 × ベンチ

を提案する。

お金ではなく、竹島から取った貝殻を入れることで

見た目の魅力だけでなく、**その人その人が感じた価値が貯まる**のではないだろうか。

例えば、貝殻を寄付してくれた人が再び蒲郡市に来て、

「おっ、これ自分が入れたやつだっ！」

「昔、このベンチ作るのに参加したんやで～」

と、思い出が蘇るきっかけになるかもしれない。

材料は、コンクリート、ベニヤ板、シリコン、レジン、貝殻。

基礎と柱はコンクリート。

場所を動かせるような見た目になると、再び竹島に来た人が同じものと分らなくなるから。

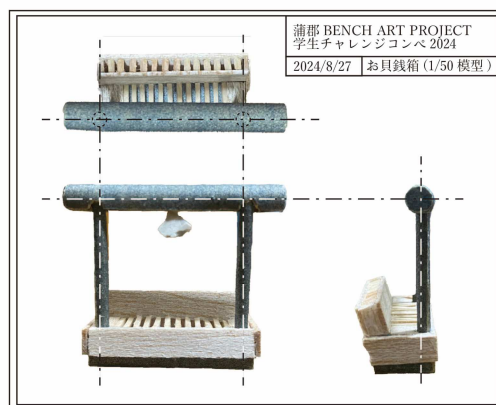
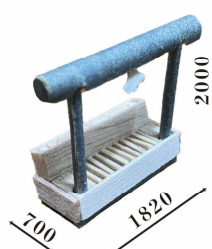
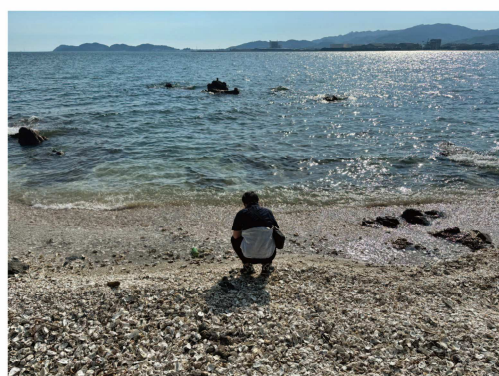
枠組の材料はベニヤ板。

お賽銭箱のようなベニヤ板の枠組の見た目で、貝殻を入れたくなる形にする。

内側の型はシリコン。

貝殻が貯まったらレジンを流し込むので、剥がしやすくするため。

サイズは **1820 × 700 × 2000。**





2つの大きな半島に囲まれ温暖な気候や穏やかな波によって、海や山の幸に恵まれた蒲郡。

古くから手芸や農業が盛んであり、穏やかな時間が流れるような人の営みがそこには存在する。

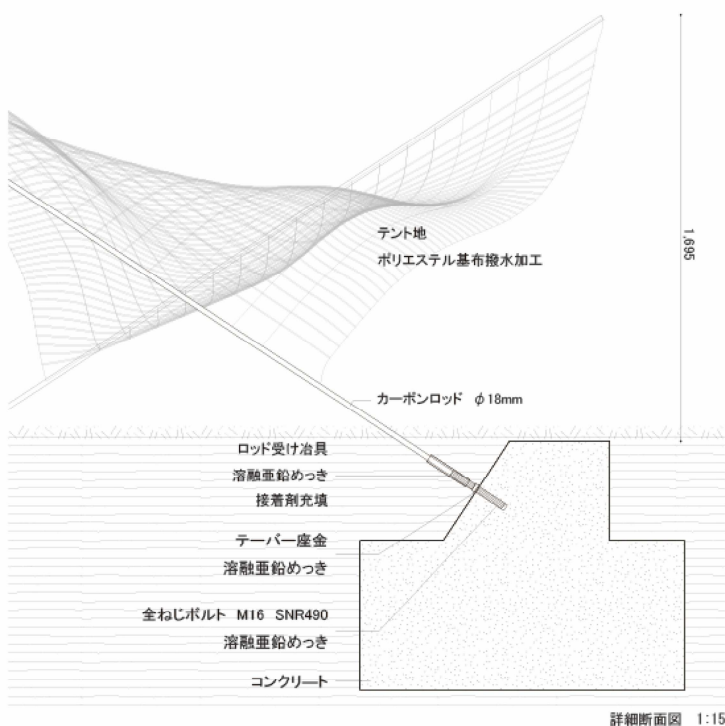
蒲郡の美しい風景の中に溶け込んで時間を忘れるような居場所を作れないだろうか。

私たちはまず“座る”という行為を再考し、腰掛けではなく居場所を作る考えに至った。

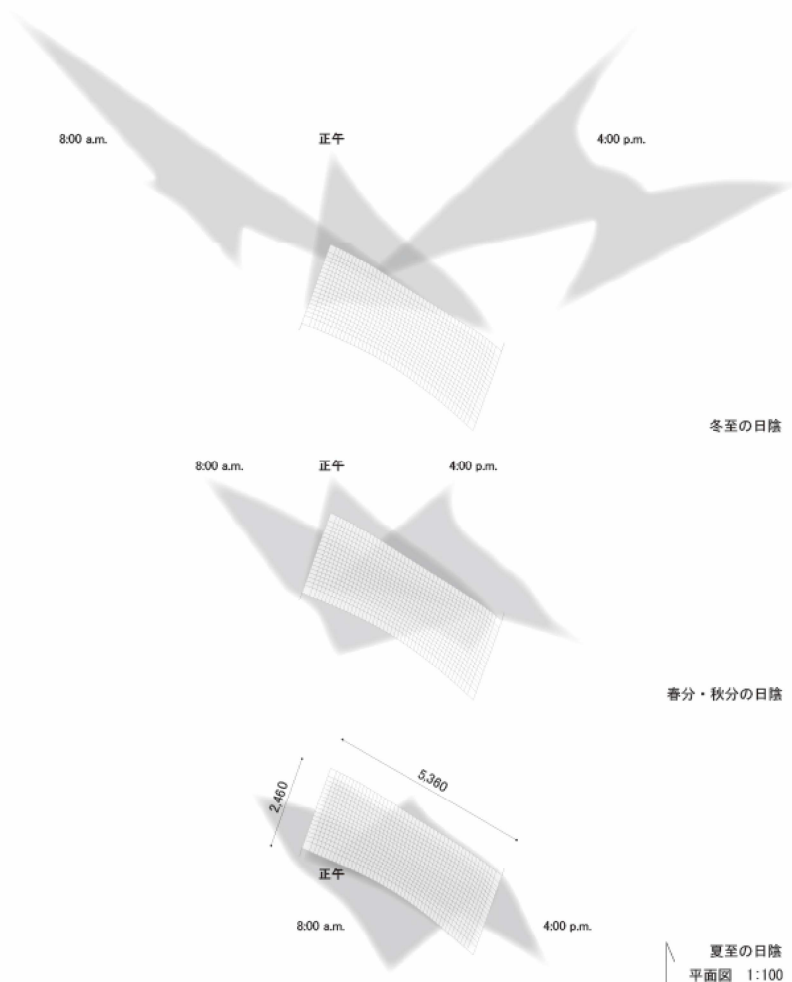
海岸特有の風を受けて空にかかる天幕は優しくなびく。

蒲郡の風景と一体になったこれらは優しい陰を落とし、陰は私たちと蒲郡の輪郭を曖昧にする。

陰に腰を下ろしたとき私たちの手が生き物や草花に触れたとき、身体全体が大地に溶け込み蒲郡の自然を全身で感じることができるだろう。

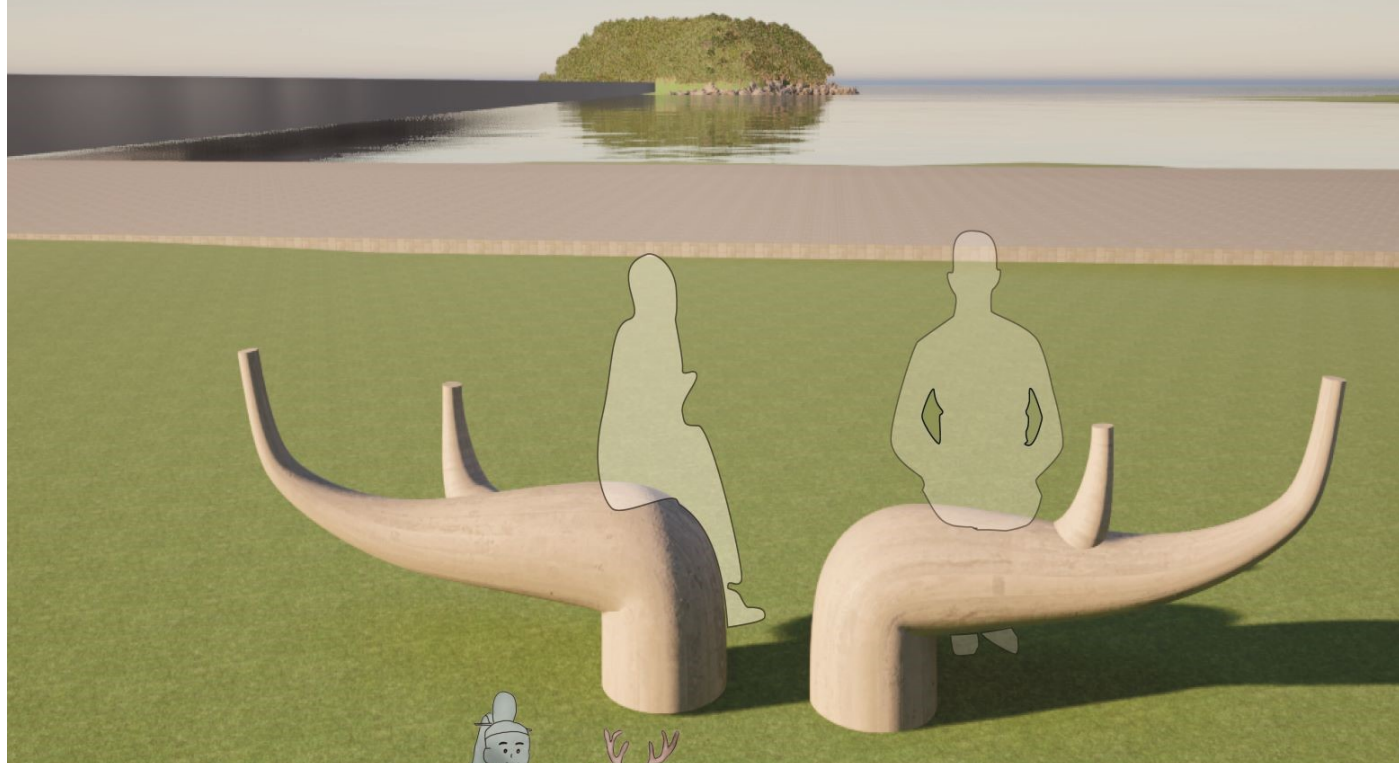


支柱は布が強風にあおられたときや、人がよりかかるなどの荷重に耐えられる直径 18 mm のカーボンロッドとした。布は耐候性があり、風を受けて変形しやすいテント地とする。



日陰の少ない海辺に、一枚の布をかけて日陰をつくる。訪れる時期や時間帯、天候によって居場所の形が変化する。二本の支柱は平面構成が点対称である。

つ り に つ り



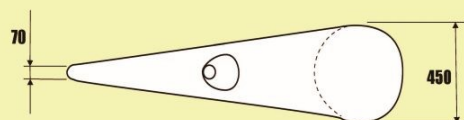
設計主旨



広い空と海、そこに浮かぶ竹島という自然豊かな景色を見ることができる竹島園地公園。この景色の良さを知ってもらいきっかけになるベンチをつくりたいと考えた。そこで蒲郡の土台をつくったとされている歌人の藤原俊成の百人一首に選ばれている歌には「鹿ぞ鳴くなる」と鹿が登場することから、鹿の姿はないが鳴く声であつと気づくことのできる鹿の存在を表そうと考え鹿の角の部分のみ見えるようにし訪れた人が歌のように鹿の存在に気づけるようにした。さらに鹿は強さの象徴として縁起の良いとされている。このことから蒲郡にゆかりがありながら古くから縁起の良いものとされている鹿の角をモチーフにすることで、竹島園地公園の景観を更に魅力的にできると思い設計した。

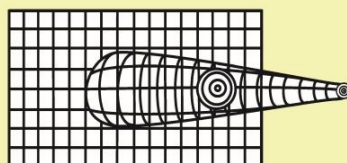


平面図

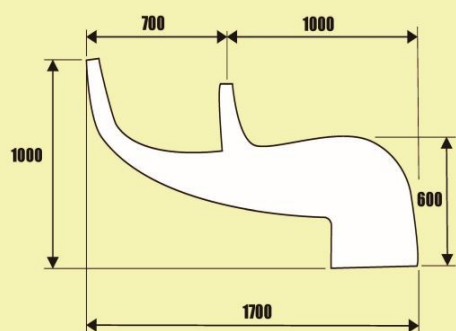


構造

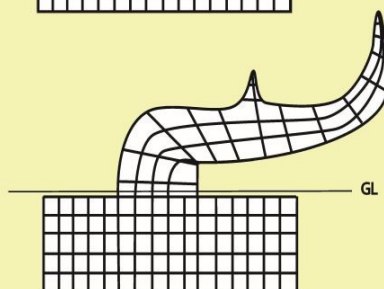
▶ 鉄筋で基礎を組み表層にモルタルを塗る。



立面図



▶ 1つの角に2人が座れる寸法にした。また、高さを600mmで脚をぶら下げることができる。



鉄筋: _____
モルタル: _____



▼ 座面にも丸みをだし、またいで座るなど座り方を楽しむことができる。

